

夜間例会（石原荘）

卓話 「鹿児島弁今昔」

橋口 満様

1、鹿児島弁の区画

鹿児島弁は、九州方言の一つで、大別して本土方言と島嶼方言とに分けられます。本土方言には、薩摩方言と大隅方言、諸県方言とがあります。鹿児島弁は、正式には薩隅方言、あるいは鹿児島方言、南九州方言などとも呼んでいます。



2、鹿児島弁の歴史

鹿児島弁の歴史は、言語年代学などで計算して約一千数百万年経過しているといわれています。鹿児島弁の最も古いものは、『大隅風土記』の逸文の中の隼人の俗言「ヒシ」と「クシラ」の二語だと言われております。隼人の俗語の特徴は、『万葉集』にも出てきており、今のような尻上がりのアクセントに移行しつつあることが推察できます。

上古から中世に至るまでは、日本各地の方言と同様、文献空白の時代が続きます。僅かに、薩摩方言は『入来文書』で少数の語彙の存在を知ることができます。

文献上に、鹿児島弁が本格的に現れ始めるのは近世になってからです。『日葡辞書』や『西遊雑記』、『物類称呼』などの本に、当時の方言が登場してきます。最も豊富に登場するのは、十八世紀になってからです。漂流民ゴンザが、ロシアで著した『新スラヴ・日本語辞典』に約一万二千語の薩摩方言が記され、鹿児島弁の歴史がかなり明確になってきました。今のように短促化する傾向がこの頃に現れた始めたことが分かってきました。幕末から明治にかけて、島津氏が書かせた『成形図説』『薩摩州蟲品』『三州物産絵図帳』などに、鹿児島弁が多く記載されるようになります。

3、鹿児島弁の現状と課題

明治から昭和の時代、鹿児島県では「方言撲滅運動」がおこります。それが徹底していたために、鹿児島弁消滅に拍車が掛かります。貴重で美しい日本語の一つ、鹿児島弁をどう継承し、保存するかが今後の大きな課題です。

今月の寄付

★ロータリー財団

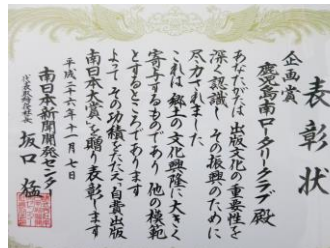
累計 83,000 円

★米山奨学会

永田会員

累計 83,000 円

創立 55 周年記念出版「なつかし道の碑」自費出版南日本大賞企画賞受賞しました！



●出席委員会報告出席率向上にご協力を！

出席報告	第 2 7 3 4 例会	10.29 訂正
会員数	3 8 (33) 人	3 8 (33) 人
出席数	1 7 (16) 人	2 9 (28) 人
出席率	5 0 . 0 0 %	8 2 . 8 6 %

●今後の予定

11/26 (土)	会員卓話 上川咲男会員
12/3 (水)	年次総会
12/10 (水)	会員卓話 大隈信彦会員

市内ロータリークラブのプログラム

★印は例会場ないし例会時間変更

RC	例会日	プログラム	例会場	RC	例会日	プログラム	例会場
東	11/20(木)	会員卓話「CLPについて」	山形屋	東南	11/25(火)	★26 日志學館大学模擬面接	サンロイヤル
北		米山奨学生卓話 劉さん	レプラント鹿児島	城西		外部卓話 ソーシャル通販サービス代表須納瀬様	東急イン
サザン		クラブフォーラム	東急イン	西	11/26(水)	小園ガバナー補佐訪問	山形屋
鹿児島	11/21(金)	青少年功績賞贈呈式	山形屋	西南		プロバスクラブ会長卓話	ゆうづき
中央	11/24(月)	祝日休会	山形屋				

